

おわりに

ハードに比べてソフトな対策は、社会や時代の変化に対する適応性が高いという特色をもつ。しかし、劣化のスピードがはるかに速く起こることもしばしば経験する。東日本大震災から十一年、トンガの海底火山噴火時の津波警報に対して、岩手県で高台避難をした住民は5%に満たないという数字は危険意識が時間とともにゆるむという脆弱性を示している。津波防災の原則は、出来るだけ早く高台へ。これに勝るものはない。

「ぼうさいこくたい2021」に参加しセッションをすすめるなかで、災害文化を動的にとらえることに加えて、新たな可能性も見えてきた。日常の活動とともに、その先に何を見るかが問われている。災害文化活動の多様なあり方を報告書として明示することは、防災への確実な試金石となっている。

この報告書を作る上で、多くの方のご支援、ご協力、ご助言を得た。あらためて感謝したい。

災害文化研究会世話人 山崎 憲治